

自己評価を重視した「主体的に学習に取り組む態度」の育成 に関する研究

—— OPPA を活用した高校英語授業を事例として ——

谷戸聡子 山梨県立わかば支援学校ふじかわ分校
中島雅子 埼玉大学教育学部自然科学講座理科分野

キーワード: 主体的に学習に取り組む態度、自己評価、OPPA、メタ認知

1. はじめに

本研究は、自己評価を重視した「主体的に学習に取り組む態度」の育成について、高等学校教科外国語（英語）を事例にその可能性を明らかにするものである。ここでいう自己評価とは、学習者や教師自身の概念や考え方、および、その変容過程を自覚することをさす(中島、2019)。

「主体的に学習に取り組む態度」について、中央教育審議会(2016)によれば、「高等学校、特に普通科における教育については、自らの人生や社会の在り方を見据えてどのような力を主体的に育むかよりも、大学入学者選抜に向けた対策が学習の動機付けとなりがちであること」が指摘されている。実際、多くの高校現場がこうした知識伝達型授業に留まりがちなのではなかろうか。この課題に対し、新学習指導要領では「主体的に学習に取り組む態度」を3観点の1つに掲げ、中央教育審議会(2019)「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」では、生徒が「自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげるといった、学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識技能を獲得したり、思考・判断・表現しようとしたりしているかどうかという、意志的な側面を捉えて評価することが求められている」と記されている。このように、これまでの知識伝達型の授業を脱却し、自己調整やメタ認知、自己評価を念頭においた授業へ転換する必要があると考える。

以上を鑑み、本研究では、自己評価を重視した形成的評価である「一枚ポートフォリオ評価 (OPPA: One Page Portfolio Assessment)、以下 OPPA と記す」(堀、2013)に注目した。理由は次の3点にある。第一に、OPPA がこれまでの評価観の転換を図るものであるからである。これまで評価は、「学習の評価」(表 1)、つまり、「成績付け (評定) を指すことが多かった」(中島、2019)。OPPA で活用する OPP シート (図 1) は、成績づけには用いない。これについて OPPA の開発者である堀 (2020) は次のように述べる。「本音で答えてもらうためには」、学習者の問いに対する回答に「評価を行ってはならない。教師の評価が入ると、意識するしないにかかわらず教師の良い評価を得るために、どうしても教師好みの回答内容になることが避けられない」。これに関連して、二宮 (2020) は、さらに次のように指摘する。「これまで評価は、その機能の観点から総括的評価と形成的評価に大きく分けられてきた」。近年、「欧米を中心にこの2つの機能は『学習の評価』と『学習のための評価』とも呼ばれ、異なる目的を持つ教育評価活動としてより明確に峻別されるようになってきた」。

表1 評価の機能 出所：中島(2019)、p.106

アプローチ	目的	準拠点	主な評価者
学習の評価 (Assessment of Learning)	成績認定、進級、進学などのための判定（評定）	他の学習者、教師や学校が設定した目標	教師
学習のための評価 (Assessment for Learning)	教師の教育活動に関する意思決定のための情報収集、それに基づく指導改善	学校や教師が設定した目標	教師
学習としての評価 (Assessment as Learning)	自己の学習のモニタリング、および、自己修正や自己調整（メタ認知）	学習者個々人が設定した目標や、学校・教師が設定した目標	学習者

さらに、「重要なのは、こうした2つの評価機能に関する議論が、『学習の評価』がもたらす負の効果を背景に進められてきている点である」。たとえば、評価の機能をこの2つに「区別することを提起したイギリスのARG（Assessment Reform Group）は、『学習の評価』、によって「子どもが自尊心を損なうこと、学習動機や自らの学習能力に対する自信を失うこととなる」といった事例を紹介している（ARG, 2002）。また、『学習のための評価』をアメリカで推進しているStiggins（2005）は、「客観的に測定することに重きを置いた『学習の評価』から、いかに子どもたちの学習を進展させるのかを第一に考える『学習のための評価』への、評価の役割転換」を主張している。

第二に、OPPAが「学習のための評価」の機能をもつことである。OPPシートには、「4-2 OPPシートを活用した授業デザイン」で述べるような、概念や考え方の変容過程の自覚化を促す機能を持つ3つの問いが設定されている（中島、2020）。これについて、堀（2020）は、次のように述べる。これら3つの問いは、「学習者が授業をどのように理解しているか、何を結果として獲得されているかを」学習者自身、および教師が「把握するため」に設定されている。「もし教師が求めていることが書かれていなければ、その授業はたとえ教師が良かったと思っていたとしても」、OPPシートの記述は学習者自身が思考、判断したものを表現しているのだから、学習者側からすれば、改善の必要があったことを示している。

第三に、OPPAが、「学習としての評価（Assessment as Learning）」という機能を持つことによる。Earl（2003）によれば、自己評価は「学習としての評価」の意味合いが強い。これについて、OPPAの提唱者である堀は、「学習と評価の一体化」を提唱し、Earl（2003）、および、石井（2015）を参照しつつ、次のように述べている。『指導と評価の一体化』と『学習と評価の一体化』は、評価と指導や学習を切り離して考えない（Assessment as Teaching and Learning）という意味である。「教育評価研究の問題において重要なのは」、これまでは、『指導と評価の一体化』という教師目線での研究が重視されており、学習者の立場からの『学習と評価の一体化』がほとんど行われてこなかったことである。これまでの自己評価は、資質・能力を育成するための学習や指導の機能をもつという視点がほとんど見られなかった（中島、2019）。先ほども述べたように、「主体的に学習に取り組む態度」の育成には、自己評価を念頭においた授業へ転換する必要がある。そこでは、以上の3点が重要と考える。

2. 研究の目的

以上を鑑み、本研究では、OPPA を活用した「主体的に学習に取り組む態度」の育成について、評価の機能に注目し、その効果を明らかにする。具体的には、高等学校教科外国語（英語）を事例に次の2点を明らかにする。1つは、「主体的に学習に取り組む態度」を育成するための工夫をした授業を行い、その効果を OPP シートの具体的な記述をもとに検証する。もう1つは、OPPA の「学習としての評価」機能を検証することである。

3. 研究の方法

研究方法は、「2. 研究の目的」を達成するため以下の手順で行った。

- ① 高等学校外国語（英語）の授業において OPP シートを作成し、「主体的に学習に取り組む態度」の育成をするための工夫をした授業を行う。
- ② ①の効果について、OPP シートの記述をもとに整理する。
- ③ OPP シートが「主体的に学習に取り組む態度」の育成に、どのように寄与したのかを整理する。
- ④ ②、③を分析し、考察する。

4. 授業の概要

ここでは、まず、今回行った「授業の概要」、次に、「OPP シートを活用した授業デザイン」、最後に、「授業内で行った工夫」を述べる。

4-1 授業の概要

授業対象者は、公立高等学校3年生、選択英語（学校設定科目）受講者30名である。英語に苦手意識を持った生徒が多いため、授業内容は基本的な構文演習と英文読解を行った(表 2)。実施時期は、2018年4月10日～5月17日。OPP シートは今回2枚使用した。

表2 主な授業内容

実施時期	授業概要	
	中心的に扱った内容	重点事項と実施内容
2018年4月10日～4月25日 (OPPシート1枚目)	① オリエンテーション	授業の工夫①「間違いを恐れない」の徹底。
	② 構文演習	be動詞の使い方と注意点。S/Vの見分け。
	③ 構文演習	構文を使った英作文作成。前置詞のイメージ把握。
	④ 英文読解	英文の読み方（左から右へ戻らない）。発音記号についての理解促進。
	⑤ 英文読解	ペアワークによる単語定着演習、本文内容把握と音読・ディクテーション（音と文字の関連）
	⑥ 英文読解	ペアワークによる単語定着演習。履歴に出た質問考察（数、品詞）。本文内容把握と音読。

	⑦ 構文演習	つまずいた箇所の理由考察。 ディクテーション。
2018年4月26日～5月17日 (OPPシート2枚目)	⑧ 構文演習	グループワークによる内容把握・暗唱、履歴に出た質問考察：前置詞、同じ発音の違う単語等。
	⑨ 構文演習	不定詞を含む構文の演習。履歴に出た質問考察：三人称単数のs等。
	⑩ 構文演習	ペアワークによる音読・暗唱、および既習構文を活用し、英語で表現する演習。
	⑪ 英文読解	黙読時間測定。that節の後のS/V抽出演習。
	⑫ 英文読解	黙読時間測定。長く複雑な英文でも左から右に読む意識付け。過去分詞の用法（形容詞として）演習。
	⑬ 英文読解	黙読時間測定。長く複雑な英文のS/Vの見分け（動詞の前に/入れる等）。動詞と名詞の見分け（前置詞の後には名詞）
	⑭ 構文演習と英文読解	つまずいた箇所の理由考察。 ディクテーション。

(使用した教材：「音でマスター英語構文 90(桐原書店)」、「Sonic Reading Stage 2 (桐原書店)」、「ラーナーズ高校英語 (数研出版)」)

4-2 OPPシートを活用した授業デザイン

OPPシートの記述欄の構成は、①事前事後に同じ問いを設定する「本質的な問い」②毎時間記述する学習履歴欄「今日の授業で一番重要だと思ったことを書きましょう」（左側）、「疑問点や感想など何でも良いので自由に書いてください」（右側）。③最下段の学習全体を通して自己の変容を振り返る学習後の自己評価欄「学習前・中・後を振り返ってみて、何が変わりましたか？また、今回の勉強を通してあなたは何がどのように変わりましたか？そのことについてあなたはどのように思いますか？感想でもかまいませんので自由に書いてください」からなる。事前とは新しいOPPシートを開始する前、事後とはシートの学習履歴欄を全て書き終えた後を指す。生徒の記述は次の①～③の手順で行う。

- ① OPPシートを開始する最初の授業で、事前の本質的な問いに対する回答を記述する。今回事前・事後の本質的な問いはOPPシートの機能を生徒により自覚させるために、OPPシートの意味を直接的に問う「幸せになるための学習履歴表とはどういうこと（意味）だと思いますか」を設定した。
- ② 毎時間の授業終わり5分間程度で「学習履歴欄」を記述する。
- ③ OPPシートの学習履歴欄を全て書き終えた後、事後の本質的な問いと最下段の欄に記述する。毎回の授業後、教師はOPPシートを回収し生徒の記述に下線を引いたり、コメントしたりする。授業を改善する必要がある場合は次回授業に修正を加える。シートは次の授業時の冒頭に返却する。

4-3 「主体的に学習に取り組む態度」を促すために授業内で行った工夫

「主体的に学習に取り組む態度」の育成を促すため、授業内では次のA、B、B'の3つの工夫を実施した(表3)。Bは、その効果を確認後「主体的に学習に取り組む態度」に結びつかない可能性を考え、5月16日よりB'に変更した。

表3 授業で行った工夫

工夫	工夫内容	目的
A	生徒が間違えることを恐れないようにするため授業中やOPPシートに次のような声かけ(コメント)を行った。具体的に	学習者の「本音」を引き出すため。

	は、「間違いは宝」、「どこの国の赤ちゃんも間違えながらことばを覚える」「(私たちは) 外国人なんだから外国語を間違えるのは当たり前」「Great!」「Wow!」「Enjoy making mistakes!»	
B	OPP シートに記述された学習者の疑問を、毎時間プリントにまとめ、次の授業でクラス全員に配付し共有した。ここでは、生徒の質問と同時に、教師のコメントや解説も記載した。具体的には、辞書を引くことや、参考書の使い方などである。	質問とその解決の仕方(道筋)を共有するために行った。これにより、課題が解決されることによる達成感の獲得を促す。
B'	教師の解答は提示せず、質問のみ記載したプリントで、生徒が自分で調べて解決するよう促した後、教師が解説した。	学習者が自ら解決の仕方(道筋)を見出すために行った。

5. 結果と考察

授業で活用した OPP シート 2 枚分の記述を、3 つの工夫についてそれぞれ整理し、分析した。

5-1 授業の工夫 A「学習者の本音を表出させるための工夫」について

1 枚目のシートでは、70% (19/30 人) の生徒から、延べ 21 か所の学習履歴欄に間違えることを肯定的に捉える記述が見られた。これらは、ほとんどが 1 枚目の OPP シートへの記述であった。これは、「声かけ (コメント)」の効果と考えられる。具体例を表 4 に示す。

表 4 OPP シートの「学習履歴欄」にみられた「間違いを恐れない」ことに関する記述 (N=30)

記述人数とその割合	記述例
19 名、70%	・間違いは大丈夫 ・間違えてもいいから書いたり話したりする ・間違うことで英語力がつく ・間違いを消さない ・できないこと、わからないことを隠さない ・よく間違うことを恐れて空白で答えてたけど、これからは何かしら絶対書こうと思った。・今までは間違えるのが怖くてできるだけ英語を使わずにいたので、今年一年は恐れずに楽しみながら授業を受けたい。

さらに、これまでほとんどみられなかった授業内容に関する質問が、1 枚目のシートでは 77%、2 枚目のシートでは 73% の生徒に見られた (表 5)。これは、工夫 A により「わからないことを恥ずかしくなく聞いてよい」という考え方が浸透したことによると考えられる。

表 5 OPP シートの「学習履歴欄」に記された質問数 (延べ数) と質問者の数 (人数 N=30)

シート	質問数	質問者数とその割合	質問例
1 枚目	32	23 名、77%	・ the の発音が変わる時がわからない ・ どうしたら品詞を見分けることができるのか ・ S は絶対に V の前までなのか
2 枚目	27	22 名、73%	・ named が動詞ではないとわかるのはどうしてか (過去分詞の形容詞的用法) ・ told は said じゃダメなのか ・ always と every time は違うのか?

これにより、「楽しみながら授業を受けたい」、「これからは何かしら絶対書こう」というような前向きな学習に取り組む態度も見られるようになった。

5-2 授業の工夫 B「質問とその解決の仕方（道筋）を共有するための工夫」について

対象校では、「何を質問していいのかわからない」、「わからない時、なにをしたらいいのかわからない」といった生徒の声が多くあった。そこで、OPPシート上に示された個々の生徒の質問と、その解決の仕方（道筋）を共有する工夫 B を行った。その結果、表 6 にみられるように「みんなの質問のおかげで『?』だったものがよく分かった」といった質問の共有による効果や、「英英辞典も使って調べるやり方があるとは初めて知った」といったその具体的な解決方法を知ることによる効果がみられた。これらが、英語学習への不安感を軽減し、これまで味わったことのない達成感を感じ得る効果を生み、その結果、「もっと色んなことを知りたい」、「自分でも質問・疑問が生まれるくらいに勉強したい。」といった前向きな学習に取り組む態度の育成を促したと考えられる。1 枚目のシートの最下段の自己評価欄にも「学習の中でたくさんの疑問がでてきて、それを解決することができて、英語が好きになった。今まで本当に何もわかっていなかったけど、この授業で少しは変わったと思う。」という、質問の共有や具体的な解決方法を知ることによる効果により、学習に取り組む態度の変容がみられる記述があった。

表 6 質問とその解答の仕方（道筋）の共有に関する「学習履歴欄」の記述例

授業日	生徒の質問例	教師の説明	課題解決後の OPP シート学習履歴欄の生徒記述例
4/10	～is absent from school はなぜ from なのか？ at はいつ使うのか	前置詞の意味、イメージをつかむために英英辞典 from や at, on 等の定義を示して説明。黒板に図示した。	4/11(a) 前置詞はイメージでつかむ。もしわからないことがあれば英英辞典も使って調べるやり方があるとは初めて知った。
			4/11(b) 前置詞について新しいことが知れた。ちゃんと意味があつて、それを知っているだけで全然ちがうと思った。英語って知れば知るほど楽しいと感じた。もっと色んなことを知りたい。
			4/11(c) まずは疑問に思うことが大切なんだなと思いました。調べ方も、なぜだと思った語だけではなくてその前の語に関係しているからその語も調べるのだと知れました。
4/18	that が入っていたり入っていませんのかわからなかった。いつ省略されるのかわからない。	プリントで例文を示し説明した。名詞節で目的語。口語で省略等。	4/19(a) みんなの質問のおかげで「?」だったものがよく分かった。that の省略についても分かってなかったが、どんな時に省略するのかわかった。
			4/19(b) 授業の始めに皆からの質問が出されて、質問疑問があるのは皆すごいなって思った。自分でも質問・疑問が生まれるくらいに勉強したいって思った。
4/19	the の発音はいつディになるのですか？	併用参考書の指定ページを抜粋したプリントで説明した。	4/24(a) 個人的にも the の発音がジになるのはどういう時か気になっていたので母音の前に来るとき、と知れて良かった。
	not と no はどう違うのですか？		4/24(b) the, not と no, know と no の違いがわかった。

	今までの授業全体に関する感想	参考書の該当ページの提示に対して	4/24(c)みんなの疑問が参考書を見ることによって解決するということがわかったので、これから活用していきたい。
--	----------------	------------------	--

5-3 授業の工夫 B' 「学習者が自ら解決方法（道筋）を見出すための工夫」について

工夫 B' として、配付するプリントには教師の解説を付けず、生徒の質問のみを記載するようにした。教師の説明は、生徒が自力で調べた後、必要に応じて授業中に行うこととした。その結果、「自分で頑張って調べることができてよかった」、「自分で調べて答えを見つけることはとても楽しい」といった記述(表 7)がみられるようになった。

表 7 授業の工夫 B' を行った後の OPP シート「学習履歴欄」の記述例

授業日	質問例	学習者が自力で課題解決した後の OPP シート学習履歴記述例
5/8	the United States の the の発音はザ or ジ?	5/16(a)疑問を自分で頑張って調べることができてよかったです。
	形容詞って何?	5/16(b)自分で調べて答えを見つけることはとても楽しいと感じた。
	always と every time は同じ?	5/16(c)わからないことでも自分でしらべてみようと思った。

また、2枚目の OPP シートの最下段「自己評価欄」(表 8)には、「先生の力を借りずに」自力解決できた状況を客観視した記述(生徒 B)や、「今、自分がどんなことができているのか、把握できた」といった自己の学びを客観視する記述(生徒 C)が見られた。

表 8 2枚目の OPP シートの最下段「自己評価欄」の記述例

生徒	記述例
B	先生の力をあまり借りずに分からない所を調べたり出来るようになっていたのでこの調子でどんどん英語が出来るようになっていきたい。英語への苦手意識がなくなり、好きになってきているのもっと頑張っていきたい。
C	今、自分がどんなことができているのか、把握できたと思う。今後も OPP シートを活用しながら自分の課題を見つけ、能動的に学習していきたいと思った。

学習前・中・後を振り返ってみて、何がわかりましたか？また、今回の勉強を通してあなたは何かどのように変わりましたか？そのことについてあなたはどのように感じますか？感想でもかまいませんので自由に書いてください。

自分で調べることが学べることができた。今まではわからないところばかりで、ほたらかしにしていたけど、授業の中でわからないところが明確になり、自分で調べられるようになった。しかし、今回のテストでまだまだまだというところがあったので、これからもっと努力していきたい。

図 2 主体的に学ぶことの意味を感じた記述例(生徒 D)

さらに、最下段の記述(図 2)では、「わからないところがわからなくてほたらかしにしていた」といったこれまでの学習状況が、「自分で調べることが学んだ」ことにより、「努力していきたい」という前向きな態度を促していることがわかる。

このように、自ら課題を自ら見つけ、自分で解決する、といった主体的な学びが、OPPA の活用により可能になった。

6. まとめ

以上より、評価の機能を軸に OPPA の「主体的に学習に取り組む態度」の育成における効果についてまとめる。

6-1 学習のための評価（Assessment for Learning）について

OPP シートに設定された問いの機能が「学習のための評価」という機能を果たしたと考える。先ほども述べたように、OPPA は、概念や考え方の変容過程の自覚化に注目して開発された。それは、「どのような働きかけが適切であったのか、あるいは不適切であったのかを把握すること」ができるからである。今回は、3つの工夫を授業において行った。たとえば、工夫 A については、表 4 に示されたような「間違いを恐れない」ことが、学習者の考え方として形成されたことがわかった。加えて、これまでほとんどみられなかった授業内容に関する質問の増加が見られた（表 5）。これらの記述があった毎時間記入する学習履歴欄では、「今日の授業で一番重要だったことを書きましょう」という問いが設定されている。したがって、学習者が考える「一番」が表出される。この「一番」が「間違いを恐れない」という考えであることを教師が把握することで、工夫 A が有効であったと教師は自己の授業を自己評価することが可能になった。工夫 B、工夫 B' においても同様である。たとえば、「5-2」で述べた質問の共有による効果や、具体的な解決方法を知ることによる効果、および、表 7 の「自分で調べて答えを見つけることはとても楽しいと感じた」といった生徒の「一番」が、教師の授業評価になると考える。

6-2 学習としての評価（Assessment as Learning）について

次に、OPP シートに設定された問いと「学習としての評価」の関係である。たとえば、今回は、「4-2」で述べたように OPP シートの機能を学習者に自覚させる意図をもって「本質的な問い」として「幸せになる学習履歴表とはどういうこと（意味）だと思いますか」を設定した。「本質的な問い」は、事前と事後で同じものを用いる。これは、学習による変容の自覚化を促すためである。これまでの多くの報告により、これらが、自己評価（自覚化）を促す効果があることがわかっている（谷戸・中島・堀、2017）。今回対象とした学校は、「4-1」でも述べたように、学習に前向きとは言い難い生徒が多く存在する。そもそもワークシートへの記述を嫌う生徒も少なくない。したがって、「4-2」でも述べたように、直接的な文言にすることで、より OPP シートの自己評価による効果を促すことを狙った。

その結果、たとえば図 1 の「最下段」欄にあるように「この紙があることによって、とても質問しやすく」、「質問を考えることによって 1 つ 1 つの英文について、しっかりと考えるようになった」と自分の学びが変容していることを自己評価（自覚）する姿がみられるようになった。通常、学習者が授業中に自ら疑問点を積極的に挙げること、さらには、それらを教師に質問することは容易なことではない。しかし、OPP シートではこの事例にも見られるように、それを可能にする。これらが、「積み重なって英語を本気でしゃべれるようになりたいと思った」といった主体的で前向きな態度の育成につながっていくことがわかった。

7. 今後の課題

今回は、1つの事例をもとに検証した。さらに今後、「主体的に学習に取り組む態度」の育成における OPPA 論を中心とした自己評価の機能と効果について、検証を重ねる必要がある。

付記

本研究は下記の分担により行われた。研究の企画は谷戸が、高校用 OPP シートのデザインは中島が作成した。実際に使用した OPP シートの作成と授業実施、執筆は谷戸が行い、中島が助言および論文の修正を行った。

謝辞

本研究をおこなうにあたり科研費 20K03269 の助成を得た。

引用文献

Assessment Reform Group (2002). *Testing, motivation and learning*. Cambridge: University of Cambridge School of Education.

中央教育審議会(2016)『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』 Retrieved from https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm 【最終アクセス 2021.9.24.】

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会(2019)『児童生徒の学習評価の在り方について（報告）』 Retrieved from https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1412933.htm 【最終アクセス 2021. 9. 24. 】

Earl, L.M. (2003). *Assessment as learning: Using classroom assessment to maximize student learning*. CA: Corwin Press.

堀 哲夫 (2013)『教育評価の本質を問う 一枚ポートフォリオ評価 OPPA 一枚の用紙の可能性』東洋館出版社。

堀 哲夫 (2020)「第 8 章 一枚ポートフォリオで自己評価を促す」田中耕治編『シリーズ 学びを変える学習評価 理論・実践編 3 評価と授業をつなぐ手法と実践』ぎょうせい、pp. 88-101。

石井英真 (2015)『今求められる学力と学びとは—コンピテンシーベースのカリキュラムの光と影—』日本標準。

中島雅子 (2019)『自己評価による授業改善 OPPA を活用して』東洋館出版社。

中島雅子 (2020)「自己評価による資質・能力の育成：OPPA（一枚ポートフォリオ評価）を活用して」『英語教育』3月号、大修館書店、pp.22-23。

二宮衆一 (2020)「探求学習における教育評価の在り方」日本教育方法学会編『教育方法 48 中等教育の課題に教育方法学はどう取り組むか』図書文化、pp.50-66。

Stiggins, R. (2005). From formative assessment to assessment FOR learning: A path to success in standards-based schools. *PHI DELTA KAPPAN*, 87(4), 324-328.

谷戸聡子・中島雅子・堀哲夫 (2017)『「自己評価」による授業改善に関する研究 —OPPA を活用した高校英語授業の事例を通して—』『教育目標・評価学会紀要』第 27 号、pp.99-108。

2021 9 30

2021 10 22

Cultivating a Positive Attitude Towards Autonomous Learning Through the Effective Use of Self-Assessment: The OPPA Method Tested in a High School English Class

YATO, Satoko

Wakaba Special Needs Education School Fujikawa Branch school

NAKAJIMA, Masako

Faculty of Education, Saitama University

Abstract

This study aims to clarify the possibility of cultivating a positive attitude towards autonomous learning through self-assessment when teaching English in high school. It has been pointed out that education at the upper secondary level tends to be dominated by traditional lessons limited to transferring knowledge to students. In order to break out of this situation, it is necessary to shift to lessons with self-assessment in mind. In this study, we focused on One Page Portfolio Assessment (OPPA), a method suggested by Tetsuo Hori, which heavily uses self-assessment in evaluating the success of concept formation. There are three reasons for our focus: First, OPPA aims to change the conventional notion of assessment. Second, OPPA functions as “Assessment *for* Learning”. Third, OPPA proposes “Assessment *as* Learning”. In order to foster a positive attitude in students towards autonomous learning, it is necessary to switch to lessons based on self-assessment. So, the three points aforementioned are significant, but need to be verified in practice. Our observations clarified that the inquiries set in OPP sheets did perform the two functions, “Assessment for Learning” and “Assessment as Learning”. We conclude that OPPA establishes “Assessment as Teaching and Learning” in class and promotes autonomous learning.

Keywords : positive attitude towards autonomous learning, self-assessment, OPPA, metacognition